

JGA/USGAハンディキャップインデックス 新ハンディキャップ競技のモチベーション

三重県・名四カントリークラブは、7月25日と8月17日の2回、新ハンディキャップによる競技を開催しました。

この競技はNew J-sysで計算されるいわゆるスロープレーシステムを導入したJGA/USGAハンディキャップを使用。名四では、この新ハンディキャップへの移行を見据えて、テスト的に新しく年間予定に加えられ開催されました。

デイキャップ競技に参加したメンバーは、ほとんどがクラブ競技に参加しているメンバーで、クラブ競技に参加していないメンバーの参加は僅かでした。

とはいえ、新ハンディキャップを採用した競技を完全に理解しておられるメンバーは少なく、実施するにあたって新ハンディキャップ「入門」編というつもりで競技が仕組まれました。

現在、新ハンディキャップ（インデックス）の登録人数は511名（7月25日現在）。今回の新ハンディキャップ

のインデックスから換算表で割り出されたコースハンディキャップを全員分準備し、本人がクラブ到着と同時に「今日

は、このハンディキャップで回ってください」と伝えて、男女ともあらかじめ指定されたティーからスタートしました。ホールアウト後、全員にアンケートをお願いし、その結果を集計。このアンケートを参考にクラブでは、来年度からどのように進めるか、今から検討を始めました。

名四は、お友達が多いので、週に2、3回のペースで本当に楽しくゴルフをやらせてもらっております。

あるから、やりなさいよ。勉強になるから」と言われて誘いました。今日のハンディキャップは15で回りました。インデックス14・1。このレディはあまり差がありません。もうすぐ70歳になりますので、昔とったハンディより年相応の数字になって満足しています。今日は暑さのためにちよちとオーバーしましたけど…。この分ですとますますゴルフがやめられませんか。

ゴルフの他にボタニカルや毛筆も趣味ですが、なかなかそちらの時間が取れません。主人もゴルフをしますがもっぱら「山」ですから、私の何分の「しかやしません。」（7月25日 名四CCにて）



7月25日。久々の優勝でご満悦の秦義明氏(右)と名四CC葛西典明社長。

着と同時に「今日は、このハンディキャップで回ってください」と伝えて、男女ともあらかじめ指定されたティーからスタートしました。ホールアウト後、全員にアンケートをお願いし、その結果を集計。このアンケートを参考にクラブでは、来年度からどのように進めるか、今から検討を始めました。

【記者の眼】
プレーが終わったらスコアカードを提出

また新ハンディキャップは、「コンピュータに強い人が担当でない」と危惧される倶楽部も見受けませんが、霞ヶ関CCの小林部長は「スマホが操作できれば、誰でもできます」と、語っておられました。（F）

JGA/USGAハンディキャップインデックス (New J-sysシステムに準拠)参加者アンケート

実施日	7月25日・8月17日			
回答数	参加者95人中89人			
年齢	40歳代	11人	50歳代	23人
	60歳代	36人	70歳代	18人
	80歳以上	1人		
性別	男性	81人	女性	8人

【問1】
クラブハンディキャップと比較して、New J-sysハンディキャップはご自身の実力に合ったハンディキャップと思いませんか。

思う…60人 思わない…11人 変わらない…16人
回答なし…2人

【問2】
ハンディキャップインデックスからコースハンディキャップへの換算について

理解できた…65人 よく理解できなかった…24人

【問3】
New J-sysハンディキャップ競技について

もっと多く開催した方がよい…45人
今年と同じく年2回程度でよい…38人
クラブハンディの競技だけでよい…6人 回答なし…1人
※複数回答…1人

【問4】
今後のNew J-sysハンディキャップ競技参加について

開催されれば参加する…73人 参加しない…2人
未定…14人

【問5】
現在の公式ハンディキャップは、日本ゴルフ協会が定めるNew J-sysハンディキャップインデックス(オフィシャルハンディキャップ)となっていますが、当クラブはこのハンディキャップとクラブハンディキャップの2本立てになっています。

このままでよい…48人
オフィシャルハンディキャップに統一した方がよい…23人
分からない…17人 回答なし…1人



アテスト風景。

【新ハンディキャップ競技の感想】



名四カントリークラブ理事
田中 昭夫

加者の競技に対する反応を知るため、簡単なアンケートを実施しました。猛暑の中でのプレイの直後にもかかわらず、90%以上の人が協力してくれました。

【問1】の、クラブハンディより自分の実力に合ったハンディキャップ

と思ったかとの問いに、70%近い人が「思う」と答え、「思わない」「変わらない」と答えた人の合計を大きく上回りました。

「思わない」と答えた人からは、「アンダーの過ぎ」「甘すぎる」等の意見が出ました。確かに、7

月の競技で38%、8月の競技で27%とクラブハンディでは考えられない数のアンダーパープレーヤーが出ました。

【問2】のインデックスからコースハンディキャップへの換算について理解できたかとの問いに、70%以上の人が「理解できた」と答えたのに対し、「よく理解できなかった」という答えが30%近くありました。今後の課題として取り組む必要があると思います。

【問3】の、New J-sys競技の開催頻度についての問いに、「もっと多く」との答えがほぼ50%近く

で、「年2回程度」が43%、「クラブハンディ競技だけでよい」は7%程度でした。

【問4】の、今後のNew J-sys競技に参加するかとの問いには、82%ほどの人が「参加する」と答え、「未定」が16%、「参加しない」は2%でした。

【問5】の、クラブのハンディキャップシステムについての問いには、「今まで通り」との答えが54%で最も多く、「オフィシャルハンディに統一すべき」の26%を大きく引き離しており、クラブメンバーの長年続いたクラブハンディキャップへの根

強い愛着を感じました。

全般的な感想として、「自分の力が理解出来るので楽しかった」という感想も出されました。

今後、さらに多くのNew J-sys競技を開催して、クラブの人たちのNew J-sysハンディキャップへの理解をより深めていきたいものと思っています。私自身は、コースレート71・6のレギュラーティーでの2回の平均ネットが71・5と正にハンディキャップ通りでした。

インデックス効果